



同窓会活動に思うこと



同窓会長 高橋 忠明

昭和48年度 技術職業学科 卒業

バトンをつないで

令和6年6月2日(日)グランヴェール岐山において、『岐阜大学教育学部創立150周年記念行事教育学部同窓生の集い』を開催することができました。岐阜大学学長、岐阜県教育委員会教育長、岐阜県都市教育長会会長、岐阜県町村教育長会会長の皆様を来賓としてお迎えし、恩師の先生方、現役の大学の先生方、そして、最年長1955年度卒の方をはじめ数多くの同窓生が集い、150周年を祝うことができました。

記念式典の開催を通し、改めて開学当時の先人の学校教育へ託した願いに思いをはせるとともに、岐阜県教育界の中で営々と築き上げられてきた岐阜大学教育学部の歩みと存在感を実感することができました。開学以来150年受け継がれたバトンをつなぐことができ、安堵しています。

順良・信愛・威重

「順良、信愛、威重」、師範学校令の第1条に述べられています。教員の資質能力の中でも、特にこのような気質を備えることが求められました。150年の学校教育の歴史を通して、教師らしい教師の気質として日本の社会に定着してきたのではないのでしょうか。

教師の資質能力に関わる問題として、日本版DBSが2026年をめどに施行されることになりました。学校では、子どもと接する仕事に就く者に性犯罪前科の有無を確認することになります。このことについて様々な視点から考えていく必要がありますが、社会からは教師を目指す者へ常に厳しい目線が向けられています。

教師を目指す学生たちには、日本版DBSをはじめ数々の規制がかかっていますが、岐阜県教員募集要項にある言葉「あなたの笑顔で子どもたちも笑顔」の意味するものを理解し、自らの気質を磨き未来ある子どもたちへの指導に当たる教師を目指してほしいものです。

実践に学び実践に生かす

岐阜大学同窓会の重要な事業の一つに、岐大論文募集があります。本年度は、第40集の募集の年となりました。

た。岐阜県の小中学校勤務の教職員を対象に実践論文を募集し、顕彰するとともに、教育実践を県下へ広めてきました。

39年にわたる膨大な実践論文の内容はその時代が求める教育実践の在り方であり、第39集では教科の本質に則ったICTの活用実践にかかわる内容が多くなっています。40年にわたる岐大論文事業を通して、仮説→実践→検証→改善のサイクルが、県下小中学校での教育実践に位置づいてきています。また、発表された教育実践論文が新たな教育実践の参考となり、学校現場での指導方法の改善等に生かされているものと自負しています。

学びを求める

私、今年度から岐阜市内小学校の放課後学びの部屋において1年生、2年生への学習サポートをしています。小中学校教師としての経験がありますが、改めて子どもたちの学びの姿の一つ一つに新鮮な感動を覚えています。写真の子どもは計算カードをめくり、少しずつスピードを上げ答えていきますが、苦手な数字のところでは空いている指を使い数字をイメージしていました。子どもたちは、文字が読め、書け、計算等、学びを通して目の前の世界が広がり、深くなります。子どもたちへ学びを系統的に提示し、支援できる喜びを味わえるのが教師であるとの思いを新たにしています。

本同窓会は、子どもたちの新鮮な学びを導き支援できる教師を育み輩出し続けてきた岐阜大学教育学部が150年を超え、次のステージへ歩まれることを願っています。同窓生の皆さん、母校の栄を見届け、支援してまいりましょう。



岐阜大学教育学部創立150周年の重さを受け止めて



教育学部長 山田 雅博

本年度4月より、岐阜大学の入学式行事は以前の形を取り戻し、長良川国際会議場にてウエルカムセレモニー（入学式後の学部入学生を対象とした企画で、卒業生による応援メッセージ等がありました。）を伴ったフルバージョン形式で厳かにかつ華やかに開催されました。この数年間の困難を経て、大学も以前の活気を取り戻しつつあります。岐阜大学教育学部・教育学研究科においても同様であり、この数年間も含め、これまで同窓会の皆様方には、日頃より多くの点でお世話になっていること、この場を借りて改めて御礼申し上げます。本稿においては、近年の教育学部・教育学研究科の近況についてご報告させていただきます。

岐阜大学教育学部創立150周年記念行事について

本学部の歴史は、明治6年12月に創設された師範研習学校から始まりました。以降、一貫して地域の教員養成に尽力し、令和5年12月をもちまして、創立150周年を迎えました。教育学部同窓会におかれましては、令和6年6月2日に『岐阜大学教育学部創立150周年記念行事「教育学部同窓生の集い」』として記念式典等を盛大に挙行されましたことに御祝いと御礼を申し上げます。

記念式典においては、「岐阜大学教育学部のこれまでのあゆみ」や「岐阜大学教育学部のこれからの10年に向けて」の報告がなされ、その後に講演会、さらに夕方からは祝賀会が多数の参加者を交えて盛大に行われました。これらのご準備や当日の運営等についてご尽力下さったこと、同窓会の皆様方には、重ねて御礼申し上げます。

岐阜大学教育学部 校舎大改修について

教育学部・教育学研究科は、今年度より数年間をかけて校舎大改修工事を行う予定です。これは、単なる部分的なリフォームではなく、耐震壁を除いた壁や天井、及び床等を全て壊し新たな時代を担う教

員を育成するための学びの空間を創設する大きな事業です。今年度から、教育学部A棟の7階建ての校舎は、工事期間を縦に3分割して3年間をかけて大改修を行っていく予定です。本稿を執筆している現在、既に教育学部長室を含んだ東側は改修工事の対象であるため、別の場所に待避しております。今後は、他の棟についても順に校舎大改修工事を行い、教育学部・教育学研究科全体で下記のような空間の創設を目指す予定です。すなわち、創立150周年を迎えた教育学部は、新たな時代に向かって動き出します。

令和3年1月の中央教育審議会答申では、「令和の日本型学校教育」を担う教員の姿として、学校教育を取り巻く変化を受け止め、探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続ける教師像が描かれています。岐阜大学教育学部では、こうした教員を育成するため、校舎改修を機に次の3点に関する空間を創設します。

- ① 教員を目指す学生自身が「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習空間の創設
- ② 多様な教科・分野の資源を活かした「教科横断的な教育」「分野融合的な研究」を促す空間の創設
- ③ 附属学校、教育委員会など、関連機関や地域等との連携交流を図るための空間の創設

創立150周年を迎え、教育学部同窓会の皆様方と教育学部の教職員とが交流を深め、岐阜県の教員養成をリードする中心大学として、同窓会の皆様方と力を合わせて教員の養成に取り組み、岐阜県におけるより一層の教職魅力化を進めていく気概が必要になるものと、あらためて150年という重さを真摯に受け止め、身の引き締まる思いを感じた次第でございます。同窓会の皆様方には、今後も温かいご協力とご指導を頂きたい、どうぞよろしくお願い致します。

岐阜大学教育学部同窓会 150周年記念行事 「教育学部同窓生の集い」開催報告

組織部会長 今井 亜湖

平成8年度 技術職業学科 卒業

令和6年6月2日(土)15時より、岐阜大学教育学部創立150周年記念行事「教育学部同窓生の集い」がホテルグランヴェール岐山において開催されました。来賓として、岐阜大学学長 吉田和弘様、岐阜県教育委員会義務教育総括監 青木孝憲様、岐阜県都市教育長会会長 水川和彦様、岐阜県町村教育長会会長 名取康夫様にご列席を賜り、120名を超える参加者とともに岐阜大学教育学部創立150周年を無事祝うことができました。

ご多用の中、記念行事に参加いただきました皆様、準備等にご協力くださいました各部会の皆様に対し、心より御礼申し上げます。

音楽教育講座ミニコンサート

記念式典の前に音楽教育講座在校生によるミニコンサートが行われました。プッチーニ作「私のお父さん」など、計5曲が演奏されました。本企画は音楽教育講座の近野賢一准教授が中心となって準備を進めてくださいました。



開式の辞

河合鋭夫同窓会副会長の開会の挨拶から創立150周年記念式典が始まりました。式典の司会は高橋和子同窓会副会長が務めました。



挨拶

主催者を代表して、高橋忠明同窓会会長が挨拶を行いました。続いて、岐阜大学教育学部を代表して、山田雅博学部長が挨拶を行いました。



来賓祝辞・来賓紹介

来賓を代表して、吉田和弘岐阜大学学長から祝辞を頂戴いたしました。その後、記念式典に出席を賜りました来賓の皆様の紹介が行われました。



映像で振り返る教育学部150年のあゆみ

広報部会のメンバーであり、美術教育講座の山田唯仁助教が制作された動画「岐阜大学教育学部150年のあゆみ」が上映されました。



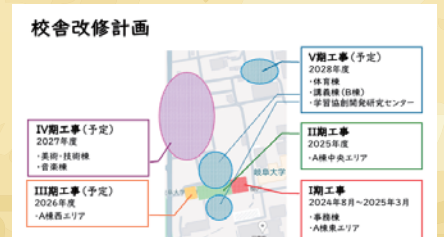
岐阜大学教育学部・教育学研究科の取り組み

今村光章副学部長からは教育学部で現在行われている取り組み, 杉森弘幸副学部長からは教育学研究科での高度職業人育成の取り組みが紹介されました。



岐阜大学教育学部のこれから

今井亜湖大規模改修ワーキンググループ副委員長が, 令和6年8月から始まる教育学部棟改修工事の概要と, 教育学部が校舎改修を機に目指している学習環境の整備について紹介しました。



閉会の辞

記念式典を締めくくる閉会の挨拶は, 原尚同窓会副会長が行いました。引き続き, 記念講演が行われました。



記念講演

村瀬康一郎同窓会副会長の司会により, 記念講演が行われました。講師として, 東京学芸大学教職大学院教授である, 堀田龍也先生をお迎えし, 「未来を創るための教育の情報化」と題し, ご講演を賜りました。堀田先生は我が国の教育の情報化を牽引され, 中央教育審議会委員や日本教育工学会会長等を歴任されています。堀田先生からは現在, 学校現場が直面しつつある現実, 教育の情報化の今, そして今後の課題について, 様々なデータに基づいて, 分かりやすく説明していただきました。

記念講演参加者からは, これまでに疑問に思っていたことが堀田先生の話を書くことで整理することができた, 明日からの業務に役立つ情報を聴くことができたといった感想をいただきました。



記念祝賀会

記念講演後, 30代から90代までの同窓生が一堂に会し, 教育学部創立150周年を祝うとともに, 親睦を深めました。記念祝賀会には, 来賓の皆様, 記念講演でお話しくださった堀田先生も参加してくださいました。



令和6年度 岐阜大学教育学部同窓会役員

役員

会長	高橋 忠明	S48 技術
副会長	高橋 和子	S49 美術
	河合 鋭夫	S52 技術
	原 尚	S53 体育
	村瀬康一郎	S53 数学
総務部会	◎ 菱川 洋介	H16 数学
	○ 熊崎 盛敏	S55 数学
	桑原 利光	S57 教育
組織部会	◎ 今井 亜湖	H 8 技術
	○ 末松 豊生	S54 教育
	政井 裕司	S55 体育
	松村 敏幸	S56 物理
事業部会	◎ 大塚 弘士	S54 史学
	○ 深尾 雅人	S57 英語
	北村 直子	S55 国語
	森 透	S55 地学
	松井 徹	S56 数学
	河井 洋子	S57 家政
	古賀 英一	S59 技術
	早川 剛	S60 数学
広報部会	◎ 鈴木 祥隆	H22 特支
	○ 古田 信宏	S54 教育
	長村 寛	S57 国語
	今井 正代	S57 数学
	大野 裕子	S58 英語
監査	山田 唯仁	H27 美術
	高木 敏彦	S48 史学
	瀬瀬 政昭	S48 数学
	小柳 欣也	S51 化学

◎部会長 ○副部会長

評議員

国文	遠山 健二	S62	生物	安藤 志郎	S43	教育	木村 由紀	H4	
	吉永 康昭	H5		井上 好章	S53		松本 郁子	H6	
	富山 哲成	H8		可児 美紀	H7		児山 耕生	H9	
	大前 剛士	H16		渡辺 寛樹	H9		郷田 賢	H10	
	丹下 侑輝	H19		細江 達三	H18		小笠原 淳	H15	
	高木 敏彦	S48		森 透	S55		師範男子	宮脇 修	S24
	武藤 貞昭	S49		古田 靖志	S58				
	川部 誠	S52		小竹 康一	S60		青年師範	石田 幸彦	S24
	薮島 一美	S54		武藤 正典	H11				
	黒木 和実	H3		澤村 秀彦	H14				
小林 直樹	S50	棚橋 弘	S48						
堀江 秀樹	S58	丸山 真姫	S59						
吉野 光浩	S59	杉本 公彦	S61						
各務 至	H4	中村 美雪	S63						
新井 恒雄	H6	西脇ひろみ	H 3						
村井 俊之	S56	竹市 安彦	S49						
横田 稔	S57	川出恵美子	S53						
丸山 靖生	H3	鬼頭 立城	S60						
日比野 崇	H16	笠嶋 誠	H 2						
古川 徹	H19	清水 也人	H 7						
近藤 新八	S43	野原 正美	S55						
柘植 卓伸	S52	清水 康孝	S59						
國定 幸敏	S53	中村 俊彦	S61						
榎井 奈津子	H 元	野原 徹二	H 元						
奥村 直也	H5	高橋 茂洋	H 6						
森 茂夫	S57	田中 正彰	S50						
名取 康夫	S57	高橋 忠明	S48						
石神 淳司	S58	清水 茂樹	S58						
渡邊 勝敏	S59	吉田 竹虎	S62						
早川 剛	S60	淀川 雅夫	H7						
奥田 好紀	S56	清水 優子	S50						
丹羽 直正	S58	河井 洋子	S57						
堀部 昇	S61	中藪代央子	H19						
市原 隆行	H2	原 考枝	H20						
竹腰 宣行	H3	坂本 真希	H22						
白木 和雄	S59	深尾 雅人	S57						
酒井 茂	S61	高橋 清仁	S58						
田辺 美樹	S61	服部 照	S58						
宮西 祐治	S63	山下 敦子	S60						
浅野 竜也	H3	酒井 猛	S63						

理事

国文	曾我部領史	H8
史学	武藤 貞昭	S49
地理	豊島 博	S58
法経	清水 泰浩	H2
哲学	谷本 龍馬	S50
数学	日置 貢	S53
物理	鈴木 雅史	S50
化学	服部 公彦	S57
生物	金子 伴和	S52
地学	小竹 康一	S60
音楽	棚橋 弘	S48
美術	竹市 安彦	S49
体育	田口 機子	S40
技職	田中 正彰	S50
家政	杉山 恵子	S48
英語	高橋 清仁	S58
教育	古田 信宏	S54
師範男子	宮脇 修	S24
青年師範	石田 幸彦	S24

(令和6年10月31日現在)

令和6年度 岐阜大学教育学部同窓会理事会・評議会報告

日時 令和6年6月2日(日) 13時00分から

場所 ホテルグランヴェール岐山

出席者等 評議員・理事・役員 91名(内委任状出席 51名)

会 議 議事については、議長として高木敏彦氏を選出し、以下の事項について審議した。

① 令和5年度事業報告

菱川総務部会長、末松組織部会長代理、大塚事業部会長、鈴木広報部会長から資料に基づき報告があった。

② 令和5年度決算報告

菱川総務部会長から5年度の会計決算報告があった。

③ 会計監査報告

小柳会計監査から、会計監査の結果、予算の執行管理等適切に行われている旨の報告があった。

④ 事業報告及び決算の承認

審議の結果、報告の通り5年度事業と決算が承認された。

⑤ 次期同窓会会長候補者推挙委員の選出

次期同窓会会長選出について、会則に則り会長候補者推挙委員の選出を行うこととした。投票結果として、小林直樹氏、竹市安彦氏、高橋清仁氏、森透氏、清水優子氏を選出した。

⑥ 令和6年度事業計画

菱川総務部会長、末松組織部会長代理、大塚事業部会長、鈴木広報部会長から各部の事業計画の提案がなされた。

⑦ 令和6年度予算審議

菱川総務部会長から、令和6年度予算についての提案がなされた。

⑧ 事業計画案及び予算案の承認

審議の結果、令和6年度の事業計画と予算を承認した。

⑨ その他

令和5年度 教育学部同窓会活動報告

月	総務部会 等	組織部会	事業部会	広報部会
4	7 入学式 ● 監査(書面)	● 役員変更状況確認	● 第38集印刷開始 ● 教育研修課との打合せ ● 臨時部会；数回	
5	20 運営委員会		● 第38集発刊 ● 第38集に係る教育研修課への依頼 18 第38集配布作業	
6	3 理事会・評議会	● 1年生IDパスワード配布	● 教育事務所長会, 県小中校長会役員会に協力依頼 ● 県教委へ後援申請	● 第1回部会(担当分担, 細部打合せ)
7		● 会費未納者再請求	● 県教職員互助会へ助成金申請	● 担当者より会報の原稿の作成依頼
8	5 拡大運営委員会			
9				● 印刷業者の選定
10			● 教育事務所訪問 ● 総合教育センター長訪問	● レイアウト, 挿絵, 配置など ● 第2回部会編集会議
11			● 審査依頼; 都市教育長会長, 町村教育長会長, 県小中校長会長, 同小校長会長, 同中校長会長	● 会報の原稿の校正(初校) ● 会報の原稿の校正(2校)
12		● 会費未納者再請求		● 同窓会報第29号発行・発送
1				
2			● 論文概要入手, 予備審査, 最終審査資料作成 28 第二次審査会	
3	25 同窓会入会式		6 最終審査会 ● 第39集発刊手続き開始	

令和5年度教育学部同窓会決算報告

●一般会計

<収入の部>		科目	決算金額
		前年度繰越金	3,140,129
		同窓会費	6,570,000
		雑収入	31
		合計	9,710,160

<支出の部>		科目	決算金額
		運営費	1,735,448
		庶務費	1,396,000
		事務管理費	129,425
		役員会費	192,343
		通信費	17,680
		渉外・交通費	0
		組織活動費	1,199,404
		名簿管理費	726,552
		同窓会入会式費	472,852
		学部援助費	30,000
		事務援助費	0
		教育文化助成費	30,000
		事業活動費	744,949
		成果刊行費	499,455
		会議費	201,256
		事務費	44,238
		広報活動費	2,495,115
		印刷費	1,262,093
		通信費	1,233,022
		次年度繰越金	3,505,244
		合計	9,710,160

●事業活動基金

<収入の部>		科目	決算金額
		前年度繰越金	38,730,203
		利息	647
		合計	38,730,850

<支出の部>		科目	決算金額
		貸金庫料	8,800
		次年度繰越金	38,722,050
		合計	38,730,850

●教育実践事業基金

<収入の部>		科目	決算金額
		前年度繰越金	2,156,030
		利息	3
		寄付金	300,000
		合計	2,456,033

<支出の部>		科目	決算金額
		教育実践論文顕彰費	432,000
		次年度繰越金	2,024,033
		合計	2,456,033

令和6年6月2日 評議会で承認済み。

令和5年度(第39回) 教育実践研究助成事業の報告

事業部会長 大塚 弘士

昭和54年度 史学科 卒業

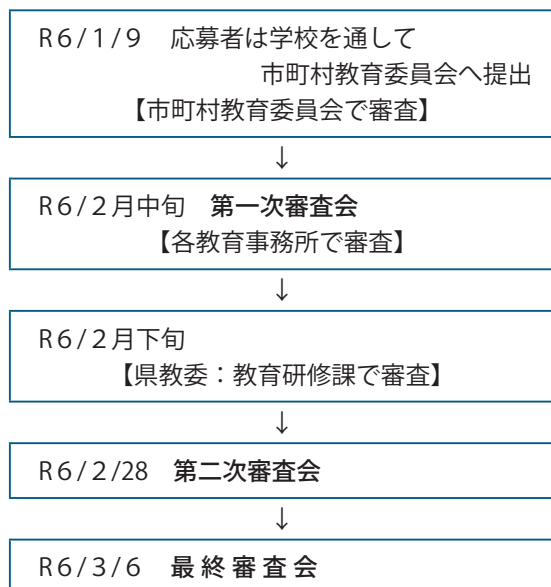
1 令和5年度の応募状況から

応募者総数：727人(前年度772人)

- 20代, 30代の応募が82%。若手教員が日々の実践を論文にまとめることを通して自分の指導力を一層高めようとしている熱意を感じた。40代, 50代, 60代の応募が18%。ベテラン教員が校内での新たな職責においても自己研鑽に励み, 教育に対する使命感のもと学び続けようとする意志を感じた。
- 教育実践の取組は, それぞれの教員の願いや問題意識のもとづき, 仮説→実践→検証→改善というサイクルで行われている。その取組には, 実践に対する真摯な省察, その省察のもとに実践を改善し継続発展させようとする姿勢が見られ, 実践論文への取組が持つ教育学的意味を改めて感じた。
- 小学校の英語嫌いや運動不足など今日的な課題に直結した実践, 特別支援教育や健康安全・管理経営についての実践等, 多岐の領域に様々な立場の方が実践に取組んでいる。
- ICTの活用については学びのデータ化が行われており, そこから児童生徒の変容を読み取ることができるようになっている。そうした中で, 教科の本質に関わらせたICTの活用実践が多くなっている。

2 審査会の報告

(1)経過



(2)審査の観点

- ①教育の今日的な課題を踏まえ, 解決の方向が明確になっているか。
- ②願う子どもの姿, 指導意図, 指導方法等は明確になっているか。
- ③児童生徒の成長や変容の姿がよく表れているか。
- ④研究および実践内容に創造性, 妥当性が見られ, 説得力のある論文であるか。

(3)令和5年度「最優秀賞」

岐阜市立長良東小学校 教諭 丹羽 宏美

楽しみながら英語を学び続ける児童を育てる英語科学習
—“World Topic”を通して, 世界への関心を高めながら—

*英語学習の初期段階で, 異文化への興味関心を高め, 英語を学ぶ意欲につなげた実践である。

*単元を見直し, 題材に合った形でWorld Topicとして異文化を扱うことで, 言語面に偏りがちな英語の授業を目的意識や相手意識をもったより魅力的な構成へと工夫されている。

関市立桜ヶ丘中学校 教諭 荘加 悠太

できる喜びを感じ よりよい動きを求める子

*ICT活用において技能習得に向けた動きを捉える視点を働かせる学びを重視し, 練習内容の選択や運動を分析する経験を積ませることで「自己決定する力」を育むことを目指した実践である。

*4つの運動種目で実践を進め, 生徒間, 対教師との「運動感覚の言語化」により充実した対話的な学びの交流が行われている。

3 今後に向けて

- 「入賞論文集」を校内研修で活用している学校がある。
- 論文募集事業では優れた教育実践を検証し良質な教育実践を広く周知し, これを参考により多くの方々に教育実践に取り組んでもらいたいという願いを持っている。こうした趣旨から, 令和6年度から事業名を「教育実践助成事業」とし, 募集要項も改訂する。多くの方からの教育実践の応募を期待している。



岐阜県小中学校 教育実践研究論文受賞者一覧

最優秀賞（2編）		
岐阜市立長良東小	丹羽 宏美	楽しみながら英語を学び続ける児童を育てる英語科学習 ～「World Topic」を通して、世界への関心を高めながら～ ＜外国語＞
関市立桜ヶ丘中	荘加 悠太	できる喜びを感じ、よりよい動きを求めの子 ＜保健体育＞

優秀賞（8編）		
山県市立高富中	小谷 公也	すべての生徒の可能性を引き出し、学ぶ喜びを実感できる数学科学習 ～「学びのデータ」を活用したコース別少人数指導を通して～ ＜数学＞
瑞穂市立本田小	岡野 咲子	探究的な見方・考え方を働かせながら主体的に学ぶ児童の育成 ～価値ある体験活動の位置付けと指導体制の工夫～ ＜総合学習＞
大垣市立西部中	綿貫 優子	不登校の初期段階の子どもへの支援のあり方 ～子どものリソースの活用とチーム援助の中核の一員としての保護者との関わりについて～ ＜教育相談＞
垂井町立不破中	稲垣 佑実	言語活動を通して「学ぶ喜び」を実感しながら、主体的にコミュニケーションを図る生徒の育成 ～言語活動の充実と思考・判断・表現する場面を中核とした生徒の英語力を向上させる授業づくり～ ＜外国語＞
美濃加茂市立太田小	林 茂 宏	自立と社会参加をめざす子が育つ自立活動の指導 ～援助要請のスキルを身に付ける授業を通して～ ＜特別支援＞
多治見市立養正小	若杉 沙恵	通常学級で困り感のある児童への支援における特別支援教育コーディネーターの役割 ～校外外の連携で児童・保護者・教師の安心感を育む～ ＜特別支援＞
中津川市立苗木小	平岡 一輝	算数科におけるICT活用の有効性 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して～ ＜算数＞
下呂市立下呂中	山北 亮太	課題に向かって追求し続ける力を育む授業の創造 ～パフォーマンス課題・思考ツールの有効性～ ＜社会＞

優良賞（40編） ※主題・副題は省略して紹介します。									
岐阜市立藍川中	松村 祐汰	理科	北方町立南学園	平岡 史奈子	学級経営	可児市立西可児中	額 康 暢	管理経営	
岐阜市立藍川中	伊藤 雄樹	国語	大垣市立興文小	佐藤 正人	特別支援	白川町立黒川中	今井 慶太	道徳	
岐阜市立加納小	村山 嘉章	総合学習	大垣市立江並中	杉野 凌真	理科	御嵩町中学校組合立共和中	川野 優	社会	
岐阜市立加納中	加藤 祐輝	国語	大垣市立東小	細江 快	その他	多治見市立精華小	虎山 泰昌	算数	
岐阜市立柳津小	小木曾 陽子	特別支援	海津市立城山小	岡島 佑樹	特別活動	多治見市立根本小	大 薦 康 司	算数	
羽島市立中央小	松尾 真衣	その他	海津市立城山小	中 神 萌	音楽	土岐市立泉中	江崎 紀子	音楽	
羽島市立福寿小	臼井 優輝	算数	養老町立広幡小	栗本 真希	体育	瑞浪市立瑞浪小	鈴木 健仁	体育	
各務原市立川島中	金子 剛大	理科	神戸町立神戸小	飯島 一紗歌	特別支援	瑞浪市立瑞浪小	成瀬 由紀	音楽	
	加藤 永希		池田町立池田小	馬 淵 彩子	国語	恵那市立恵那西中	高山 雄匠	保健体育	
	小川 将弥		関市立下有知中	齋藤 美織	保健体育	中津川市立南小	後藤 詩織	音楽	
各務原市立陵南小	中野 美奈子	学級経営	美濃市立大矢田小	栗 瑞 貴	体育	高山市立国府中	新井 学	その他	
各務原市立緑陽中	梅村 亮介	社会	郡上市立八幡小	鈴木 裕司	体育	飛騨市立神岡小	井上 陸生	算数	
本巣市立糸貫中	高木 力斗	学級経営	郡上市立八幡中	鎗山 卓万	美術	飛騨市立神岡中	曾我 紗季子	数学	
岐南町立北小	間野 智明	特別活動	美濃加茂市立太田小	吉村 海人	社会	白川村立白川郷学園	川原 昌士	健康安全	

新人賞（24編） ※主題・副題は省略して紹介します。									
岐阜市立長良小	曾我部 宗	体育	垂井町立垂井小	齊藤 実佑	国語	可児市立今渡北小	梶原 楓也	特別活動	
山県市立美山小	松田 成恵	体育	安八町組合立東安中	沢田 美百合	国語	八百津町立久田見小	日野原 朱莉	健康安全	
瑞穂市立本田小	菱田 浩見	算数	安八町組合立東安中	廣澤 直樹	特別活動	御嵩町中学校組合立共和中	春見 亮磨	道徳	
本巣市立根尾学園	武井 友香	健康安全	揖斐川町立揖斐川中	杉山 雪乃	国語	多治見市立精華小	福岡 菜々	社会	
笠松町立下羽栗小	江崎 竜世	体育	池田町立宮地小	鳥本 詩織	学級経営	土岐市立泉小	仙石 健太	体育	
大垣市立星和中	加藤 真奈	技術・家庭	関市立小金田中	土屋 美咲希	美術	恵那市立大井第二小	藤 垣 吏	体育	
大垣市立西部中	杉本 真子	美術	美濃市立牧谷小	黒田 千恵	体育	中津川市立坂本小	藤川 理子	音楽	
養老町立養老小	古屋 慎太郎	学級経営	美濃加茂市立古井小	大塚 友貴	音楽	高山市立北稜中	各務 史恩	総合学習	

第39回教育実践研究論文の優良賞・新人賞の主題・副題は、同窓会ホームページよりご覧いただけます。





美濃市立大矢田小学校 校長

古川 克己

平成元年度 教育学科教育学コース 卒業
平成17年度 大学院 学校教育専攻学校教育専修 修了

今のお仕事について教えてください。

美濃市立大矢田小学校の校長をしています。本校は秋の紅葉で有名な大矢田神社の南に位置し、神社の祭礼である国選択無形民俗文化財「大矢田ひんこ祭」は、子どもたちの郷土愛を育む貴重なふるさと学習の教材になっています。

岐阜大学で学んだことが役に立っていると感じることはどんなことですか？

私が当時学んでいた教育学科教育学コースは、学校教育に関わる実践的な研究の場でしたので、これまでの教職経験に非常に役立ちました。

その中でも、卒業論文作成に向けてどの研究室に入るかを決めていく際に、それぞれの先生方の所へ出向いて、自分の学生としての浅はかな経験から得た疑問を先生方にぶつけて尋ね、多くの対話の時間をつくっていただいたことを覚えています。ある教授からは、「教育の中で決めつけはよくない」ということをご指摘いただき、それが強く心に残っていますし、今でも様々な決断をする際の、心のどこからか囁かれる大切な言葉になっています。

また、3年生からの研究室では、教育方法論を選択したこともあって、学校現場の授業参観や、視察校の校内研究会の参加など、県内だけでなく県外の学校に何度も訪問させていただきました。そこでは、地域や学校によ

って本当に様々な授業研究の進め方があり、子どもたちの「学び」とは、どんなものか授業を分析し、振り返ることの重要性や、授業研究の検証のあり方などを教えていただきました。子ども一人一人の発言や行動を丁寧に受け止めるといった授業での基本的な姿勢を、学生ながらも知ることができ、本当に有意義だったことを覚えています。

岐阜大学卒業後に新たに学んだことや、学び直したことはありますか？

30代後半に、大学の恩師の教授から、教育学研究科(教職修士課程)への入学について紹介があったことから大学での学び直しに興味をもちました。当時、学校現場では多くの校務分掌を引き受けていましたが、周りの先生方からのご支援もあって入学を決意しました。

1年目は院生と同じように様々な分野での単位を修得しながら、週に2日学校現場で授業実践の積み重ね、2年目は学校現場に戻って、週に1度大学で修士論文の指導を受けるといった忙しい毎日でした。

大学では、学生や院生と共に学ぶ機会が多く、一緒に県外の学校を視察したり、授業研究会に参加したりして、子どもの学びについて多角的に知見を広げ

ていくことができました。修士論文作成に向けて大変でしたが、大学の先生方の最新の教育研究と現場での教育実践とを常にリンクさせながら学んでいけたことが本当によかったと思っています。現在も教師として「学び続ける」精神があるのも、この学び直しのおかげだと感謝しています。

後輩の岐阜大学生へ贈るメッセージをお願いします。

教師は、子どもたちの夢に希望と自信を与える崇高な職業であると同時に、子どもたちやその保護者、地域から学ぶことによって自分の生き方にも繋がる特別な職業であることは言うまでもありません。自分の人生を豊かに生きるためにも「教師」という選択があつていいと思います。教師への志を抱くために、さまざまな経験をしたり、対話を通じて多くの先生方から学んで知見を広げたりして、ぜひ学生生活を豊かに過ごしていただく。



『5,6年生表現演技 子どもひんここの様子』



《新人先生奮闘記》

安八郡安八町立結小学校 教諭

丸岡 裕

平成30年度 社会科教育講座 卒業

勤務で楽しかったことは何ですか？

子どもの成長を間近で見ることができるのが、楽しさ、やりがいだと思っています。自分の考えを進んで話すことが得意ではなかった子が挙手をして話そうとする姿、今までリーダーに挑戦してこなかった子が委員長などの役割に挑戦しようとする姿、運動会本番の大縄で、練習で到達できなかった回数を記録する姿など、子どもたちが変わる瞬間を目にすると嬉しくなります。また、授業では、自分の考えた内容や作成した教材で子どもたちが楽しく、夢中になって授業に取り組む様子を見ると、一生懸命考えてよかったと思います。

教員として最も必要な力は何でしょうか？

「学び続ける力」が必要だと思えます。教員になって1年目は、何も分からず、失敗をしたり、難しいと思ったりすることがあります。経験を何年かした今でも、上手いかわないことがたくさんあります。失敗したり、出来なかつたりするのは、方法を知らないこともあるのではないかと思います。そこで、教師としての力を高めるためには、学ぶことが重要だと考えました。学ぶために、同じ学校の先生に相談をしています。同じ学校の先生方は、それぞれ様々な指導の仕方を知っています。どのように授業や生徒指導、学級経営をしているかを姿で見たり、聞いたりしてたくさん学んでいます。

大学生活を振り返った時、現在の勤務に大いに役立っていることはどんなことですか？

役立っていることは二つあります。一つ目は、塾講師のアルバイトです。1対1で指導をする塾でした。受け持った子どもたちは、年齢も様々でしたので、子ども一人一人に適した話し方や指導の仕方を考えながら、学習計画を立てました。勤務をしてからでも、それぞれの子どもに適した指導をすることが大切なので、アルバイトの経験を生かしながら指導をすることもありました。

二つ目は、専門教科の講義です。私は、社会科の地理学の専攻です。地理学の授業の一環で、東京都や静岡県について自分でテーマを決めて調べ、実際に現地で確かめることをしました。その場所に行ってみないと分からないことが多くありました。卒業研究では、岐阜市の商店街について調べ、店舗やまちづくりを行う団体などに取材を行いました。講義を通して、実際に現地に行って調べることや取材の仕方を学ぶことができました。現在は3年生を担当しています。社会科の学習で地域の工場や店舗の見学を行います。聞きたいことを明確にして取材をしたり、子どもたちにも実際に見学をして、様々なことを学んで欲しいという願いを伝えたりしながら指導をしています。

保護者との会話で気を付けていることはありますか？

気を付けていることは、二つあります。

一つ目は、「子どものよさを具体的に話すこと」です。「～を頑張っていますよ」という言葉だけでは、なかなか子どもの頑張りを伝えることはできません。頑張りがより伝わりやすくなるように、子どもの頑張りが分かるノートのページや写真などを見せながら具体的に話すことを大切にしています。

二つ目は、気になることがあればすぐに連絡をすることです。学校で体調が悪くなった時や怪我をした時など、学校での様子や対応を連絡しています。そうすることで、保護者の方や子どもに「先生は心配してくれているのだな」ということが伝わり、安心して生活することができると思えます。子どもが痛い思いや嫌な思いをすると保護者の方も同じような思いになるので、普段から子どもたちの様子を見て、連絡することを心がけています。



赤松諒一選手 パリオリンピック 走り高跳び5位入賞！



今年2024年7月26日から8月11日にかけてフランスのパリで開催されたオリンピック。教育学部・教育学研究科修了の赤松諒一選手が走り高跳びの種目でオリンピックに出場し、5位入賞の好成績を残されました。予選では2m27cmの記録で決勝に進み、決勝では2m31cmの自己ベストを更新しての5位入賞となりました。

赤松諒一選手と指導コーチの体育科の林陵平准教授に喜びのコメントをいただきましたので、ご紹介いたします。



赤松諒一選手略歴

出身地：岐阜県

加納高校→岐阜大学教育学部→岐阜大学大学院を経て、現、西武・プリンスホテルワールドワイドに所属。現在、医学系研究科研究生でもあります。

赤松諒一選手

本大会はこれまでの陸上人生で最も良い成績、かつ最も楽しめた試合となりました。目標としていた前回大会以上の記録と順位(ブダペスト世界陸上決勝2.25m, 8位)も達成することができ、ようやく世界レベルの大会でも実績を残すことができるようになってきたという実感があります。来年は東京世界陸上の開催が予定されており、参加標準記録はパリオリンピックに引き続き2.33mとなっています。自己ベストをあと2cm更新し、標準記録を突破して出場権を獲得したいと思っています。また、本誌にて活躍する同窓生として掲載していただけますことを大変光栄に思います。今後も岐阜大学卒業生の一員として励んで参りますので応援よろしくをお願いします！

指導コーチ 林 陵平 准教授(教育学部保健体育講座)

はじめに、パリオリンピックではOBOGの皆様からたくさんのご声援をいただき、ありがとうございました。私は赤松と出会って8年目となりますが、彼は競技力だけではなく、人間的にもかなり成長できていることを実感しています。彼は学生時代、競技と研究に対して一生懸命取り組みました。こうした過去の経験が、現在の彼の競技力と人間力を作り上げたと思います。私は岐阜大学に着任して8年目となりますが、教育学部の学生が本気になれば、競技でも研究でも国際的に活躍できると感じています。今後は、今回のパリオリンピックでの経験を、コーチング学やトレーニング学に関する教育で学生たちに還元していきます。引き続き、私たちの活動にご声援いただけますと幸いです！



10月24日に、岐阜市から赤松選手に岐阜市栄光賞が授与されました。おめでとうございます。

教職サポート室の取組

～一人でも多くの学生を教員に～

【教育指導員】

教育実習係：深尾雅人・大野裕子

教員採用係：末松豊生・早川 剛

令和6年度実施(令和7年度採用)教員採用選考試験受験状況

※教職サポート室が実施する「学習会」参加者の受験状況(人)

	4年生				院生	合計
	岐阜県	愛知県	名古屋市	その他		
小学校	54 (56)	7 (10)	2 (4)	2 (9)	1 (1)	66 (80)
中学校	43 (32)	10 (7)	4 (4)	4 (8)	2 (2)	63 (53)
高等学校	8 (11)	2 (0)	[中高]	0 (2)	0(0)	10 (13)
特別支援学校	7 (7)	1 (3)	0 (0)	0 (2)	0(0)	8 (12)
計	112 (106)	20 (20)	6 (8)	6 (21)	3 (3)	147 (158)

()内は前年度

教職サポート室には、教育実習係と教員採用係があり、共に連携しながら学生をサポートしています。教育実習係は、各学年で実施している教育実習の事前・事後指導や実習協力校への訪問などを行っています。教員採用係は、「学習会」を通して、学級経営や保護者対応、面接練習など、教員採用試験に向けて指導を行っています。大学との連携・協力を大切に、一人でも多くの学生が、やりがいと使命感を持って教員をめざしてくれるよう、熱い思いをもって取り組んでいます。

なお、教員志望のほぼ全員が、「学習会」に参加しています。学生たちは、互いに切磋琢磨しながら頑張っています。

教育実習係

教育実習等に係る学生への指導及び教育実習協力校・関係市町教育委員会との連携・調整

【実習協力校の校数】

全県：小27 中27
岐阜：小15 中16
西濃：小3 中3
美濃：小2 中2
可茂：小2 中2
東濃：小3 中2
飛騨：小2 中2

出身地に近い場所での教育実習(小・中各2年生5日間, 3年生1か月間)

令和2年度から、出身地に近い場所での教育実習「ふるさと実習」を実施しており、概ね良好な反応を得ています。他県出身者の多くは、岐阜市内またはJR沿線の学校で実習しています。

教職トライアル→教職リサーチ→教職プラクティス→教職インターン

1年次：附属小中学校での観察, 2年次：実習協力校での支援・ふれあい体験, 3年次：従来の教育実習, 4年次：希望者による希望校(実習校, 出身校等)での職業体験

上記のように、学校現場での体験を段階的に充実させています。特に2年次の教職リサーチと3年次の教職プラクティスは、基本的には同じ学校で実習するため、教職リサーチの1週間の体験を活かして、3年次の教育実習に安心して臨むことができると、学生、実習協力校、共に好評を得ています。



【頑張った教育実習】

<教育実習係の関わり>

事前指導・事後指導で、心構えの指導や体験の価値づけ等を行っています。変わりつつある学校の様子や進路情報を伝えたり、教職経験者の講話を取り入れたりと、教員という仕事の魅力を感じ、希望をもって教員を目指すことができるよう、内容の改善を図っています。また、期間中は学校を訪問し、管理職との情報交換、学生一人一人への声かけ・励まし、大学への情報提供を行い、実習等の円滑な運営を支えています。

教員採用係

教員を志す学生への進路相談及び教員採用選考試験のための「学習会」の実施と指導・助言

教員採用試験の早期化と複数回実施について

文部科学省の提示を受け、今年度、教員採用試験が大きく変わりました。1点目は、岐阜県や愛知県等の教員採用試験が、前年度より約1か月前倒しで実施されたことです。願書受付は、進級前の3月下旬から始まり、1次試験は6月中旬(前年度7月中旬)、2次試験は7月中旬(前年度8月中旬)となり、それぞれ1か月程度早い実施となりました。したがって、「学習会」も、1か月分の内容を圧縮した形で実施しました。

2点目は、3年生も受験が可能になったことです。ただし、受験できるのは1次試験のみ。1次試験に合格した場合は、次年度実施の1次試験は免除となり、2次試験に臨みます。残念ながら不合格の場合は、次年度の1次試験からの受験となります。肯定的にとらえると、3年生と4年生の時の2回受験できることとなります。

この早期化と複数回実施を受け、各学年で実施する実習事後指導や履修ガイダンス等で、教員採用に関わる情報提供を積極的に行うとともに、「学習会」の実施時期や内容等の見直しを図っていきたくと考えています。

「2次試験を終えて」(受験報告書からの抜粋)

- ・今まで教員になりたいという漠然とした夢だったが、学習会に参加する中で、理想とする具体的な教員像をもつことができました。学習会にはとても感謝しています。
- ・この勉強期間を通して、自分がどんな人間、そして教師になりたいのかをじっくりと考えることができました。それが学習会に参加したことの大きな意義です。
- ・学習会を通して、自分の考えを自信をもって自分らしく他者に伝えられるようになりました。また、教職サポート室の先生方の話を聞いて教育の知識も増え、自分の教育観がはっきりしてきました。すごく自分自身が成長できたなと実感しています。
- ・仲間がいたからこそ最後までしっかり取り組みました。教採が終わりではなく、教員生活への幕開けです。普段から周りの人への感謝を忘れず、謙虚な態度で過ごしていきたいです。



【学習会「校種別個人面接練習」】



【学習会「模擬面接」】



【学習会「個人模擬面接」】
(面接官：同窓会役員)

着任された教員の皆様からのご挨拶

巢内 尚子 先生

社会科学教育講座（現代社会）・准教授



2024年4月に社会科学教育講座に着任しました。専門は国際社会学、ジェンダー研究です。とくにベトナムから日本、台湾への国際移住労働を研究しています。日本では技能実習生、台湾では家事・介護労働者、工場労働者として働くベトナム人の方たちが多数いますが、債務、低賃金、ハラスメント、暴力、性暴力、妊娠を理由とする帰国強要など様々な問題が起きています。課題や差別がなぜ生じるのかを明らかにするため、調査をしています。移住女性の性と生殖に関する健康と権利(SRHR)状況や日本での出産・育児についても調べています。2020年からは在日ベトナム人や難民の方たちの支援に参加しています。最近ではベトナム人技能実習生の支援や難民の女性の妊娠・出産・育児支援にかかりました。学生には日本社会の多様性や移民の方が直面する課題や差別の実態を理解してほしいと考えています。岐阜県に暮らすのは初めてですが、多数の移民の方が暮らし、多様な取り組みがなされている岐阜県に大きな関心を持っています。「私の地域ではこういう課題がある」「私たちはこうした支援をしている」などありましたら、ぜひ教えてください。

古村 真帆 先生

学校教育講座(教育心理コース)・助教

本年4月に学校教育講座(教育心理コース)に着任いたしました。発達臨床分野を専門領域としています。これまでの発達相談員やスクールカウンセラー等の経験も合わせ、通常の学級における特別な教育的ニーズのある子どもを含めた集団づくりの研究をしています。特にこれまでは、合理的配慮等の個別支援を、同じクラスの他の子どもたちがどのように捉えるのか、子どもの発達や学級適応などの個と集団の両方の視点から検討してきました。今後も全ての子どもにとって居心地のよい学級集団を考え、インクルーシブ教育や共生社会の実現に向けた研究や実践活動に励みたいと思います。

岐阜県での生活は初めてです。これから、たくさんの学校現場や地域の皆様と出会い、多くのことを学ばせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

岩崎 翼 先生

技術教育講座・助教



今年度から技術教育講座に着任いたしました岩崎翼と申します。昨年度まで埼玉県の中学校で技術科の教員を務めておりました。

これまでの研究では、「動物に関する教育」をテーマに、人と動物のかかわりに着目して、小・中学校教育における動物の取扱いについて調査してきました。現在の学校教育では動物について、愛玩性に傾倒して取り扱われている傾向があることに課題意識を抱いております。動物は「かわいい」だけの存在ではなく、時に「食べる」存在であり、時に人や環境に「害をなす」存在でもあります。これらの側面を子供たちにどう伝え、適切なかかわり方を養うためにはどういった内容を、どの学校段階において学習すべきかを明らかにしていきたいと検討しております。

また、大学時代には栽培学に関する研究室にて農作業に従事しておりましたので、学校園での栽培学習にも貢献していけたらと思います。特技は畝立てです。どうぞよろしくお願いたします。

西門 純 先生

教職実践開発専攻・准教授



岐阜県教育委員会から交流人事で教職大学院に赴任しました。これまで、岐阜県の小中学校の教員や行政の立場から学校教育に関わってきました。この4月からは、教員志望の学生や現職教員の方とこれからの学校教育について携わることができることに大変やりがいを感じております。私自身、本学の教職大学院の修了生でもありますので、岐阜県の教育のために貢献できるように努めてまいります。

本学では、主に、岐阜県教育委員会との会議の調整を図ること、市町村教育委員会と岐阜大学をつなぐこと、実習校に実習生の受け入れをお願いすることなどの業務を担い、外部とのパイプ役を務めております。また、主に学部卒院生(ストレートマスター)への指導を担当し、授業研究基礎論や授業研究実践論等の講義を通して、学校現場での実践に即した学びができるように具体的な事例を取り扱ったり、演習を位置付けたりするなど、現場で勤務していた強みを生かした指導をすることに努めてまいります。

末松 美咲 先生

国語教育講座・准教授

今年度より国語教育講座に着任いたしました。専門は古典文学で、前近代の絵入りの物語を研究しています。今年は大河ドラマで紫式部が取り上げられ、『源氏物語』が改めて注目されていますが、その『源氏物語』も成立直後から絵巻が作られたように、物語は絵を伴い伝えられてきました。とりわけ、室町期以降には多くの絵巻や絵本が制作されます。それらの作品を実際に調査し、成立や享受の様相について考察しています。

『源氏物語』ほどの有名作品でなくとも、私たちの身のまわりには古典文学が様々に息づいています。例えば、現代の漫画やアニメにおける古典利用や、住んでいる地域の昔話や伝説は、遠い昔の物語を身近に感じさせるものです。あるいは、自分の家のすぐ近くに、古典籍が所蔵されていることも少なくありません。こうした身近な資料を用いてどのように古典を伝えていくのか、古典教育の可能性を模索しながら、学生とともに邁進していきたいと思えます。



【架蔵『文正草子絵巻』断簡】

令和6年度に着任された 教員のご紹介

令和6年4月1日をもって、
着任された教員は次の通りです。

末松 美咲	准教授	国語教育
巢内 尚子	准教授	社会科教育（現代社会）
岩崎 翼	助教	技術教育
古村 真帆	助教	学校教育（教育心理コース）
西門 純	准教授	教職実践開発専攻
松原 正也	教授	学習協創開発研究センター



退職教員のご紹介

令和6年3月31日をもって、
退職された教員は次の通りです。

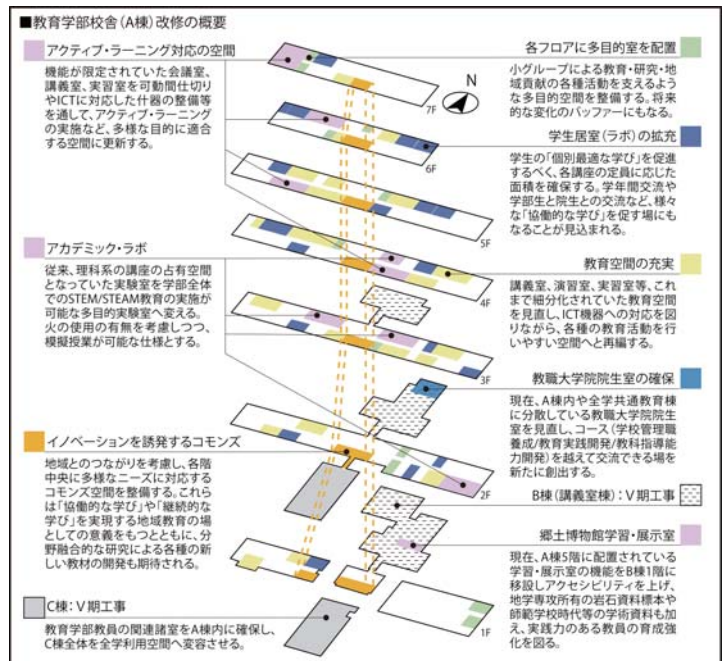
大関 泰宏	教授	社会科教育（地理学）
坂内 栄夫	教授	社会科教育（現代社会）
松永 洋介	教授	音楽教育
柘植 直樹	准教授	数学教育
菊池 一人	准教授	教職実践開発専攻

岐阜大学基金・特定事業〔所得控除対象〕

「岐阜大学教育学部創立160周年記念事業」ご寄付のお願い

岐阜大学教育学部と岐阜大学教育学部同窓会による「岐阜大学教育学部創立160周年記念事業」が、本年6月に設置されました。本会誌とともに同封されております趣意書のとおり、教育学部は本年8月よりA棟の校舎改修を皮切りに、美術・技術棟、音楽棟、保健体育棟、B棟、C棟と改修を行います。この校舎改修を学び舎のイノベーションを起こすためのチャンスと捉え、新しい「学び」を実現する柔軟で創造的な学習空間を創設するための教育機器や什器等の整備等を目的とご寄付を現在募っております。授業をはじめ、教員研修等でも活用していただける学習空間の整備等に対し、同窓生の皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。

※ご寄付の申込み方法は、同封の趣意書等をご覧ください。



A棟改修イメージ(2022年12月作成)

(大規模改修ワーキンググループ副委員長/組織部会長 今井亜湖)

会員専用システムの登録情報をご確認ください

会員サービスの向上を目的に、会員専用システム(通称:会員サイト)を用いた情報提供を積極的に行っていきたくと考えております。会員の皆様には、会員サイトで提供された情報がメールでも受け取れるように、メールアドレスをはじめとする登録情報の確認・更新をお願いいたします。

1 「会員専用システム」へログインする

※初回ログイン時には、メールアドレスと生年月日の登録が必要になります。



QRコード

<https://gifudai-kyodoso.jp>

2 ご自身の登録情報の確認と変更を行う

「メニュー」から「プロフィール確認・変更」を選択します。登録情報を変更したい場合は、「編集」ボタンを選択し、情報の更新をお願いします。

登録情報については、開示する範囲を設定することができます。詳しくは、編集画面上部をご覧ください。



住所、勤務先などの情報は **編集** ボタンをクリックし、編集画面で修正できます。

各学科同窓会の活動



史学

担当者：山元 祐介
連絡先：山県市立桜尾小学校 ☎0581-27-2101

「史明会」総会の開催

【期 日】令和6年8月25日(日)

【会 場】ホテルグランヴェール岐山

(1) 総会

今回より総会を隔年で開催することになり、当日は新役員の紹介、事業報告、会計報告、事業計画が提案され、承認されました。

(2) 講演会

岐阜大学教育学部の田澤晴子先生をお招きし、「飛驒の女工哀史を再考する」と題して講演をしていただきました。講演では近年の研究を踏まえ、日本の生糸を支えた女工の境遇や待遇が、明治、大正、昭和と時代を経るにつれて大きく変化していったこととお話いただき、当たり前のように捉えられている歴史的事象も不断の見直しが必要であるという思いを新たにしました。

※ 次回の史明会総会及び講演会は、令和8年8月に開催します。多くの皆様方のご参会をお待ちしております。



化学

担当者：馬淵 勝弘
連絡先：岐阜市立加納西小学校 ☎058-271-4122

★令和10年5月「吉松三博教授 退官記念」を行う予定です。

吉松研究室出身生で今年度、化学科同窓会報「かんきせん」が届いていない方は現在、連絡がとれない人になっております。届いていない方は gidaikagaku@yahoo.co.jp に「郵便番号 住所 氏名 卒業年」をお知らせください。また、化学科卒業生で化学科同窓会報「かんきせん」が届いていない方も上記アドレスに知らせていただくと、同窓会報を郵送します。なお、住所等については、化学科同窓会以外で使用いたしません。

★今年度の活動

- (1) 化学科同窓会報「かんきせん 36号」の発行・送付
- (2) 修士論文・卒業研究発表会の参加・支援
- (3) 同窓会入会への説明
- (4) 同窓会総会 令和6年8月11日(日)10:00~
 - ・事業報告
 - ・会計報告
 - ・規約改正
 - ・記念講演 「科学から見た温泉」

下呂発温泉博物館 名誉館長 古田 靖志 先生

(5) 研究会活動(岐阜かがく教育研究会)

令和6年12月28日(土)13:00~

12月第4土曜日に、岐阜大学教育学部附属小中学校で実践交流会を行います。興味がある方はご連絡をお願いいたします。



美術

担当者：清水 也人
連絡先：岐阜市立岐阜小学校 ☎058-265-6388

令和6年1月20日(土)に県小学校図画工作・中学校美術部会の会長と本同窓会事務局で臨時会議を開催し、今後の活動の方向性を協議し、持続可能な活動をすすめています。

(1) BAND「岐阜県図画工作・美術研究会」グループ募集中

・スマホ・タブレット等から「図画工作・美術」で気軽につながる場をつくり(R5.9月現在230名程)、随時内容を更新しながら相互の連携・連帯意識を高めています。

(2) 造形教育関係者向けホームページ「岐阜図工・美術NET」更新中

・県造形教育実践を県内外の造形教育関係者に発信・交流する場をつくり、連携・連帯意識を高めています。

(3) 岐阜県造形連盟ホームページ『ぎふ美術のかぜ2』更新中

・同窓生相互の連携と連帯意識を高めるため、そして、美術文化及び美術教育の振興を図っています。

(4) 同窓会入会式

・令和6年2月21日(水)、岐阜大学美術棟で実施

数学

担当者：堀江 尚暢

連絡先：岐阜市立陽南中学校 ☎ 058-274-0055

(1) 本年度の活動

○令和6・7年度わしょう会総会

【開催日】令和6年5月26日(日)

【会場】岐阜大学教育学部附属小中学校 第1会議室

【講演】北方町教育委員会 教育長 名取 康夫 先生(31期生)

演題 「教育への思いなど」

【研究会】発表者 本巣市立本巣中学校 廣瀬 美可子 教諭(65期生)

岐阜大学教育学部附属小中学校 平尾 龍平 教諭(57期生)



今年度はわしょう会総会として、5年ぶりに対面による開催を行うことができました。わしょう会会長の岩田恵司先生からお話をいただき、わしょう会副会長名取康夫先生には記念講演をしていただきました。研究会では発表された先生方の提案から自身の実践を振り返ることができました。提案に対する助言を寺田圭子先生(34期生)、三島晃陽先生(41期生)にいただきました。約60名の会員の方と共に充実した会になりました。

会の終了後、会員同士の親睦を深めるために親睦会を行いました。

○数学科卒業予定者に対する、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明(令和7年1月予定)

○「わしょう会」役員会の実施と、来年度以降の計画の立案(令和7年1月予定)

(2) その他

○令和7年度は可茂地区での開催となります。可茂地区の会員の方を始め、ぜひ多くの会員の皆様にご参会いただきますようお願いします。



音楽

担当者：杉本 公彦

連絡先：岐阜市立早田小学校 ☎ 058-231-1319

(1) 卒業生対象に同窓会入会説明会

2024年1月26日(金)理事長杉本が、音楽棟で入会説明会(内容は同窓会の組織や活動内容の説明、理事の確認、名簿の作成に係る依頼等)を行いました。

(2) 卒業記念コンサートを応援

2024年2月12日、卒業記念演奏会がOKBふれあい会館サラマンカホールで行われ、同窓会役員がリハーサルに伺いました。学生の皆さんが企画・運営から自分たちで準備を進められ、心のこもった素晴らしい演奏会でした。今年も同窓会からお花を贈呈させていただきました。

(3) 会則(旧規約)の見直し・役員改正

現在、会員数が1,200人を越え、同窓会活動そのものを持続可能な運営にしていくために、今年度、会則(旧規約)を大きく見直し、2024年9月21日に理事会で承認をいただきました。役員改正とともに、総会でご報告させていただきます。

(4) 今後の活動について

今年度の総会ならびに懇親会以降、同窓会の様々な活動のお知らせ等について、岐阜大学教育学部同窓会ホームページ(以下「同窓会ホームページ」)を活用させていただきます。活用の主な内容は次の通りです。

① 同窓会活動についてのお知らせを、カテゴリーの「お知らせ」でご案内させていただきます。機関誌「間」について、次号以降デジタルデータにより「お知らせ」での紹介とさせていただきます。(郵送によるお届けは、今年度発行の第44号までとさせていただきます。)

② 卒業後の名簿について、「会員専用システム」により管理・更新していきます。ご自分の情報をご確認いただき、最新の情報に、それぞれご本人が更新していただくよう、お願いいたします。

③ 今後、手紙等の紙媒体によるご案内(同窓会総会・懇親会のご案内、機関誌「間」の紙媒体による発送等)は、原則行いません。様々な情報は「同窓会ホームページ」と、年に一回教育学部同窓会より発行される本誌「岐阜大学教育学部同窓会報」の「各学科同窓会の活動」のページのご案内となります。

なお、同窓会ホームページのアドレスや会員専用システムの利用については、教育学部同窓会報掲載の「会員専用システムご利用の手引き」をご確認ください。

詳細は、9月21日付けで郵送させていただきました「岐阜大学教育学部音楽学科・音楽教育講座同窓会の運営について(お願い)」を参照ください。



♪ 令和6年度 岐阜大学教育学部音楽学科・音楽講座同窓会 総会ならびに懇親会のご案内 ♪

【開催期日】令和6年12月14日(土)

【会場】長良川温泉 石金 (総会：11:00～ 懇親会 12:00～)

会費・申込方法等の詳細につきましては、9月21日付けで会員の皆様あてに、機関誌「間」と一緒に総会・懇親会のご案内を郵送によりご案内させていただきます。紙媒体によるご案内は、今回が最後となる予定です。今後、変更や追加等のお知らせがございましたら、同窓会ホームページの「お知らせ」に掲載させていただきます。ご確認ください。

多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

体育

担当者：清水 康孝
連絡先：本巣市立真正幼稚園 ☎ 058-324-8323

(1) 令和5年度 優秀選手表彰

平成5年2月5日(月)：体育学科卒業論文発表会にて実施
本年度は17名の大学の現役選手の表彰を行いました。

(2) 令和5年度 同窓会入会式

令和6年3月25日(月)：卒業式後に実施
本年度は21名の新会員の入会がありました。

(3) 令和6年度 同窓会総会及び還暦お祝いの会

令和6年6月8日(土)
会場：グランヴェール岐山
出席者：70名

毎年、原則6月の第二土曜日に総会とともに、還暦を迎えられた方のお祝いと懇親会を行い、親睦を深めています。新型コロナウイルスも落ち着き、今年度は5年ぶりに通常のとおり開催をすることができました。合わせて、岐阜大学をご退職された今井一先生、山脇恭二先生のご退官をお祝いする会も遅れてではありましたが実施することができました。通常開催ということやご退官された今井先生、山脇先生のご臨席も賜り、久しぶりに多くの方が集まり、楽しいひと時を過ごすことができました。

(4) 令和6年7月25日(木)同窓生 赤松諒一選手の激励会

岐阜大学教育学部体育棟にて岐阜大学教育学部体育学科同窓生の赤松諒一選手が全日本選手権、走り高跳びで2連覇され、「パリオリンピック派遣選手」となられました。それを激励する会を行うことができました。本同窓会、田口機子会長より赤松選手に激励金をお渡しさせていただき、同窓会員一同の誇りである赤松選手のパリオリンピック出場を心からお祝いするとともに精一杯の応援をさせていただきますことをお伝えしました。

※パリオリンピックでは日本の走高跳史上、88年ぶりとなる最高タイの5位入賞、自己新記録更新という素晴らしい成績を残されました。本当におめでとうございました！同窓会としても大変誇りに思います。ありがとうございました。



【同窓会・還暦をお祝いする会】



【田口会長と赤松選手 激励会にて】

家政

担当者：水野 菜月
連絡先：関市役所都市計画課（古民家あいせき） ☎ 0575-36-4048

1 2024年度の活動内容

(1) 同窓会総会・懇親会・講演会準備

2024年5月12日(日)、7月21日(日)に役員会を行い、5年に1回開催する同窓会・懇親会に向けての準備を行いました。

(2) 現況調査と現況調査デジタル化のアンケート実施

毎年実施している現況調査を5月末日に実施しました。また、家政科同窓会会員数の増加、個人情報保護の観点から、現況調査のデジタル化の可否について年次代表者にアンケートを実施しました。アンケートの結果、これまで通り郵送で実施する学年とデジタル対応で実施する学年とを明確にすることができました。

(3) 第12回家政学科同窓会総会・懇親会・講演会の開催

2024年8月4日(日)に、第12回家政科同窓会・懇親会・講演会をホテルグランヴェール岐山で開催しました。今年度は、家政学科同窓会総会開催60周年の節目でした。そこで、同窓会総会・懇親会に加え、講演会を行いました。

総会では、次の4議題が承認されました。

議題1：次期役員を選出・承認（任期：2024年8月5日～2029年同窓会日）

議題2：会務報告

議題3：会計報告・会計監査

議題4：現況調査等のデジタル化について

懇親会では、昭和30年度卒から平成29年度卒まで、全63世代が一同に会し、元気に活躍されている先輩や同級生の姿に励まされるよい機会となりました。

講演会では、福祉業界のオシャレ番長、四条畷学園大学客員教授である平林景先生を講師にお迎えし、『福祉×医療×ファッション』が世界の常識を変える』を拝聴しました。福祉とファッションの融合について、講演を聴くだけでなく、参加した同窓会会員同士で考えを交流し合う場面もあり、楽しい時間を過ごすことができました。



2 今後の活動内容

(1) 会員現況調査

今年度実施した現況調査デジタル化の結果に従い、毎年7月（総会開催年度は4月）に、各年次代表者の方に現況調査のお願いをし、同学年の方とのつながりがもてるように働きかけを行います。

(2) 同窓会総会・懇親会

次回総会・懇親会は、2029年夏を予定しています。詳細は別途ご案内します。

英語

担当者：市村 一
連絡先：西濃教育事務所 学校職員課 ☎ 0584-73-1111

令和5年度は、「ランタン会(総会等)」を開催しませんでした。令和6年度は、コロナ禍を経て6年ぶりに、令和7年2月2日(日) グランヴェール岐山にて開催を予定しています。ぜひ、ご参加ください。

ご案内は、各期の評議員からさせていただいておりますが、ご不明な点等ございましたら、英語学科同窓会事務局までお問合せください。

教育

担当者：小笠原 淳
連絡先：岐阜大学附属小中学校 ☎ 058-271-3545

コロナ禍で見送っていましたが教育学科同窓会を6年ぶりに行います。

○日にち 令和7年(2025年)2月2日(日)

○場 所 ホテルグランヴェール岐山

○内 容 ・総会及び講演会 ・懇親会

詳細は後日案内を送付しますので、そちらをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。

その他の各学科同窓会事務局連絡先

学科	担当者	事務局連絡先	電 話	学科	担当者	事務局連絡先	電 話
国語	丹下 侑輝	岐阜大学教育学部附属小中学校	058-271-0320	物理	竹腰 宣行	可茂教育事務所 学校教育課	0574-25-3111
地理	坂口 亨	海津市立海津小学校	0584-53-0059	生物	高橋 亮	岐阜大学教育学部附属小中学校	058-271-0320
法経	丸山 靖生	羽島市立足近小学校	058-391-3348	地学	篠田 耕佑	岐阜市立長良小学校	058-232-2119
哲学	井上 達也	岐阜県教育委員会 義務教育課	058-272-1111	技術	磯谷 直毅	岐阜大学教育学部附属小中学校	058-271-0320

住所不明の会員へのお声かけのお願い

毎年引越し等により、同窓会報の送付ができなくなる会員が多数おられます。

昨年度から会員サイトの「お知らせ」にて「住所不明者一覧表」を掲載し、会員の皆様にお声かけいただき、ご本人から連絡先の登録依頼を行っていただいております。皆様のご協力のおかげで、毎年一定数の会員の連絡先が判明しております。本年度もご協力のほど、よろしく願いいたします。



<https://pu.palsyne.net/u-gif-kyouiku/>
会員サイト QR コードを読み込む



トップ画面右上のお知らせ「住所不明者一覧表【令和6年10月現在】」を選択し、「住所不明者一覧表 2024.pdf」をクリックする。

住所不明者のご連絡は
右記QRコードからお願いいたします。



編集後記

今年度6月に教育学部創立150周年行事が行われました。記念祝賀会の会場で御年92歳になられる先輩にお会いできました。大学卒業後、ニュージーランドで日本語を教えておられたお話などを伺わせていただきました。「いろんなことを広く勉強して、世界を見てほしい。」とお言葉をかけていただきました。長年、教育に携わられてきた先輩の言葉の重みをととても感じました。教育学部の歴史やつながりを感じることができた日となりました。

7月にはパリ・オリンピックパラリンピックが開催されました。教育学部卒業・教育研究科修了の赤松選手の走高跳5位入賞。これほど身近にオリンピックを感じることは今までありませんでした。パラリンピックでは、ボッチャの団体戦が印象に残っています。駆け引きや投球の正確さに驚かされました。物事を極めた人にしか見えない景色があるのだと感じました。来年2025年は、東京でデフリンピック(きこえない、きこえにくい人のためのオリンピック)の100周年大会が開催されます。日本でのデフリンピックの開催は初です。大会を通して、障害のある方への理解がより一層進むことが期待されます。

ところで、本同窓会報は第30号となります。各学科同窓会の活動報告のページでは、ページが足らなくなるほどの活動報告をいただき、嬉しく思いました。また、150周年行事へ参加ができなかった同窓生に向けてページを作成しました。本同窓会報を通して、150周年行事や同窓会報30年の歴史を感じていただき、同窓生が教育学部を振り返る時間をお届けできればと思っております。(広報部会 鈴木祥隆)

同窓会報第30号の表紙

《クラリネット二重奏》木彫
清水陽加瑠 (令和4年度卒)

私は普段楽器を演奏します。本番のために、時間をかけて自分の理想の音を追求します。

作品ではその本番の一瞬を切り抜きました。音は一瞬で消えてしまうけれど、形として一瞬を残せたことを嬉しく思います。

今でもはっきりと、あのかけがえのない時間を思い出させてくれます。



岐阜大学同窓会報第30号

発行日 / 令和6年12月発行

発行者 / 高橋 忠明

発行所 / 岐阜大学教育学部同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL : 058-293-2344 (平日10時~15時)

FAX : 058-293-2343 (24時間)

E-mail : info@gifudai-kyodoso.jp

岐阜大学教育学部同窓会ホームページ
<https://gifudai-kyodoso.jp/>

